

南あわじ市 平成 20 年度 事務事業評価シート 新規 継続

(事業 委託 補助用)

I 基本事項

整理番号 1369

事業名	わんぱく塾		予算科目	会計	一般会計・1
担当部課名	教育部	生涯学習文化振興課		款	教育費・10款
電話	0799 - 37 - 3020			項	社会教育費・5項
事業分類	<input type="checkbox"/> 義務的(法定)事務 <input checked="" type="checkbox"/> 任意的(自治)事務			目	青少年教育費・9目
南あわじ市総合計画 施策体系	まちづくりの柱		法的根拠 (法令、条例、要綱等)		
	まちづくりの目標		人づくり_知恵あふれ_郷土愛が満ちるまちづくり_		
	施策目標		一人ひとりが明日を拓くリーダー【教育】 子ども達や市民が、南あわじ市の未来を切り拓くための、多様な能力を身につける機会を提供する		
該当する事業について「 」を選択		施策的事業	業務委託	負担金補助	

II Plan (計画、事業内容、事業背景)

事業概要	目的	対象(誰を・どのような状況の人に)	
		<p>少子化は児童の減少は兄弟、姉妹間と言う環境も消滅させ、一人で在宅と言う状況も多くなってきた。幼年期から青年期において群れることを忘れた子どもたちは協調性と他人に対する思いやりの欠如につながる恐れがある。次世代を担う子どもたちを対象に集団的体験活動を実施する。</p>	対象人数(人)
		2,900	
		意図(どのような状態になってもらいたいのか、事業を実施する「本来の目的」を記入)	
		<p>人は一人で生きていけるものではなく、他人との繋がりを大切に、自分とは違うものを相手から見つけることにより、協調性や創造性、道徳観を徐々に身につけて行く。小さな学校も大きな学校も隔てなく全体に呼びかけることにより、新しい交流が生まれ子どもの環境が広がる。未来の南あわじ市を担う子どもたちが、人の繋がりと郷土の自然や文化を体験することにより、心豊かな人づくり、まちづくりが出来るものと考えている。青少年教育の最重要施策と考えている。</p>	
	実施内容	(何をどのような手段・内容・手順により目的を達成させるのか)	
		<p>年度開始前から事業立案、計画段階に入り、新年度早々に市内全児童に学校を通じてチラシを配布し、募集を行なっている。5月から事業が開始し、年間を通じての事業展開となっているが、主としては夏休みに行なう。20年度はチラシに広告協賛を募集し、企業の広告を掲載している。全児童2900名への案内に対し、参加児童は延べ人数にしても2200名となっており、全ての児童を巻き込むことは、児童の家庭環境、地域環境などにおいて困難もある。特に、社会スポーツへの参加率が高い現状がある。しかしながら、これほど市内の子ども達が参加できる事業は他になく、市内の自然を使った体験学習とスポーツ体験、また伝統文化に親しみ郷土への理解を深めることも行っている。また、各種団体との連携は非常に大きな力となっており、いづみ会 婦人会 老人会の協力体制には大きいものがあり、多彩な体験活動を支えてもらっていると考えている。</p>	
	背景	(どのような現状・課題・要望によって事業が実施されるに至ったか、他の自治体の動向など)	
		<p>旧西淡のあそび塾を基本に、旧三原のふれあい100円塾や旧南淡のうずしお交遊塾の良さを取り入れた全児童対象に行なう体験学習。関東や近畿圏、近くは淡路市からの視察や情報の提供依頼もある、斬新的な企画であり、保護者の喜びの声もある。子ども達が群れる環境が不足し、母親の社会進出が進む現代社会において、仲間同士と異年齢交流は、非行防止と社会的感覚の育成に繋がっていると考える。</p>	
	事業実施主体	<input checked="" type="checkbox"/> 市直営 <input type="checkbox"/> 民間・その他 ()	
	事業期間	<input type="checkbox"/> 平成 17 年度 ~ 平成 年度 <input checked="" type="checkbox"/> 設定なし	
合併協議事務調整内容	(合併前における事業実施団体と合併時における事務調整経緯)		
	<input type="checkbox"/> 旧緑町 <input type="checkbox"/> 旧西淡町 <input type="checkbox"/> 旧三原町 <input type="checkbox"/> 旧南淡町 <input type="checkbox"/> 旧広域事務組合 <input checked="" type="checkbox"/> 新市から 市内全児童対象に社会体験活動の場の提供		

Ⅲ Do (事業活動・成果、投入資源・コスト)

「実施内容」により得られる活動結果指標 (アウトプット)	指標名	参加人数				指標単位 参加者
	指標説明 (指標算出方法等)					
		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	
	目標値	-	100	100	100	
	実績値	-	90	90	90	
	達成度 (%)	-	90.0	90.0	90.0	
目標値設定の考え方	児童数減少は否めないため、参加者人数が減少傾向となる。					
アウトプットにより達成される「目的」に対する事業の成果指標 (アウトカム)	指標名	指標単位				
	指標説明 (指標算出方法等)					
		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	
	目標値	100	100	100	850	
	実績値	80	85	90	90	
	達成度 (%)	80.0	85.0	90.0	10.6	
目標値設定の考え方						
資源配分 (インプット)		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	
	直接事業費 (千円)	1,000	1,000	1,000	850	
	財源 (千円)					
	国					
	県					
	起債					
	その他					
	一般財源[A]	1,000	1,000	1,000	850	
	人件費(正規職員)[B] (千円)	13,455	13,545	12,555	12,555	
	平均人件費(1日当り)	29.9	30.1	27.9	27.9	
	事業量1(事業に要した日数)	150	150	150	150	
	事業量2(事業に要した人数)	3	3	3	3	
	年間経費([A]+[B])	14,455	14,545	13,555	13,405	
	「目的」対象人数1人当り経費 (千円)	5.0	5.0	4.7	4.6	
	受益者人数(2,200)1人当り経費(千円)	6.6	6.6	6.2	6.1	
経費に関する補足説明	補助金以外に参加費を集める。参加費は材料等相当額の負担である。補助金は、その他の経費を補う部分と講師謝礼等が大部分である。					

IV Check (事業の自己評価・一次評価)

		単位	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度
達成度	活動結果指標目標達成度	%	-	90.0	90.0	90.0
	(アウトプットの達成度分析、問題点・課題などを記入。) 全児童(小中学生)3,000名対象に、全児童選択機『わんぱく塾』として売り出し(募集し)、行政側の目線ではなく、子どもたちと同じ目線に立った事業案内を行なった。延べ2,200名の参加があり、他の行政機関よりの視察や問い合わせも多かった。南あわじ市ホームページでの事業内容の配信や募集チラシ作成時のアイデア、さらに年間を通して多彩な事業内容が評価されたと考える。事業の継続は、子ども達の要求度から考えて必要不可欠である。問題点は、経済的に恵まれていない子ども達への参加費の低減化をどうするかであるが、受益者負担の原則にかなう参加費と判断している。参加費を低く抑えた場合は、事業予算が不足となり運営が制約され、参加率も事業効果も上らないと予想される。					
有効性	成果指標目標達成度	%	80.0	85.0	90.0	10.6
	成果向上率	%	-	6.3	5.9	0.0
	(事業実施による目的に対しての有効性分析、問題点・課題などを記入。) 集団で一定期間に事業を行なう事により、多くの児童が参加できる。また継続性の事業であり、毎年参加する児童がほとんどである。合併後、広く浸透してきた事業であり、今後も継続は必要であると考え。子ども達の長期休暇、特に夏休みの過ごし方は、近年大幅に変わってきた。夏休みを中点に事業を子ども達の選択により展開することにより、自発的な参加が多くなった。今後も広く周知し、継続性・連続性を持ち事業を展開する。					
効率性	活動実績1単位当り経費	千円	-	161.6	150.6	148.9
	効率性増減率	%	-	-	6.8	1.1
	(効率性・コストの分析、問題点・課題などを記入。) 学校を通じて広報、募集をすることにより、確実に周知が出来、費用的にも安価で案内が行なえる。南あわじ市を担う子ども達への未来(夢)への投資であることからしても、補助金85万円は十分妥当なものとする。投下する事業経費だけの効果評価は適切ではなく、目に見えない効果は無量大であり、行政側の積極的な企画運営を継続したい。					
必要性	公共性の高低	<input type="checkbox"/> 高 <input checked="" type="checkbox"/> 中 <input type="checkbox"/> 低				
	(公共性、市民ニーズ、緊急性などを分析、問題点・課題などを記入。) 市内全児童対象であることが一番の強みの事業。参加は個人の選択であり、子ども達の自主性も大きな人間形成の一つです。群れる中での他人との相違点を見出し、協調性と道徳観を養うことが非行防止への第一歩であると考え。体験学習と文化体験は創造性と自ら考え行動する自主を促し、青少年育成に大きな役割を担うと確信する。					
総合評価	自己評価をふまえた現状分析					
	17年の合併以来、4年目となり、兄弟 姉妹間、また保護者間、地域で広く浸透して来たことは確かである。継続は力なりはまさにこの事業であり今後も必要である。児童数が減少して行く今こそ、青少年への健全教育が必要であり、家庭の諸事情も複雑化している一面にも考慮しながら、この事業は進められている。ただ、事業運営において、食問題(アレルギー)やひきこもり、引いては発達生涯児等の対応など対応すべき課題も多岐に渡ってきた。よって、指導や安全管理面での人材の確保や事業内容などに背役を受けてきている中で、関係職員的人的削減は事業遂行には大きな負担となりつつある。今後は、事業メニューを絞り込むなど、職員やボランティアの負担を軽減する方向への検討が急がれる。					

V Action&Plan (改善の内容及び次年度以降の計画)

	平成21年度にできる改善・改革	平成22年度以降にできる中期的な改善・改革
今後の方向性とその理由	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 休止・廃止 <input type="checkbox"/> 事業統廃合 <input type="checkbox"/> 予算充実 <input type="checkbox"/> 予算削減 <input type="checkbox"/> 手法見直し	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 休止・廃止 <input type="checkbox"/> 事業統廃合 <input type="checkbox"/> 予算充実 <input type="checkbox"/> 予算削減 <input type="checkbox"/> 手法見直し
	<p>補助金の削減に対しては、広告宣伝費などで収入源を得ることを検討している。預かった子どもたちの安全・安心を考えたとき、事業メニューを絞り込むなど、職員やボランティアの負担を軽くすることも必要と考えている。</p>	
(現状維持以外の改善方法)		
改善によって期待される効果	効果(アウトカム)面	効果(アウトカム)面
	コスト面	コスト面
(現状維持の場合も記入)	<p>仮に事業を中止、統廃合した場合に予測される影響(プラス面、マイナス面)</p> <p>マイナス面 = 青少年の健全育成の場として、事業は機能しており、参加児童も多いことから、中止した場合は、市内の児童の体験学習機会を著しく損ねてしまうこととなる。</p>	